

被災建築物の状況 的確な把握必要

東日本大震災の被災地におけるアスベスト対策

東日本大震災の被災地では、がれきの処理や建築物などの解体・建築物やがれきの集積場などの状況を調査した、全国アスベストなどに伴い、アスベストによる2次被害の可能性も懸念され、ト適正処理協議会調査・分析部会長の豊口敏之(環境管理センター技術本部長)に話を聞いた。



全国アスベスト適正処理協議会 調査・分析部会副部長 (環境管理センター技術本部長) 豊口敏之氏に聞く

現場の状況は今後

アッパされているが、アスベストに関しては、津波被災地では、内陸部の被災地域の建築物でも広く被害が生じている可能性がある。外観では見られないもの、外観では見えない被害を受けていない印象であった。しかし、建物の中を確かめると、壁や天井に大きなひびが入っていたり、天井が脱落して天井の耐火被覆が吹き出しに

なっていたりと、外観からの印象よりも建物の実態のダメージは大きいという状況だ。

今回の震災における報道などでは、津波被害を受けた建物やがれきのアスベスト問題がクローズ

アップされているが、アスベストに関しては、津波被災地では、内陸部の被災地域の建築物でも広く被害が生じている可能性がある。外観では見られないもの、外観では見えない被害を受けていない印象であった。しかし、建物の中を確かめると、壁や天井に大きなひびが入っていたり、天井が脱落して天井の耐火被覆が吹き出しに

なっていたりと、外観からの印象よりも建物の実態のダメージは大きいという状況だ。

今回の震災における報道などでは、津波被害を受けた建物やがれきのアスベスト問題がクローズアップされているが、アスベストに関しては、津波被災地では、内陸部の被災地域の建築物でも広く被害が生じている可能性がある。外観では見られないもの、外観では見えない被害を受けていない印象であった。しかし、建物の中を確かめると、壁や天井に大きなひびが入っていたり、天井が脱落して天井の耐火被覆が吹き出しに

なっていたりと、外観からの印象よりも建物の実態のダメージは大きいという状況だ。

今回の震災における報道などでは、津波被害を受けた建物やがれきのアスベスト問題がクローズアップされているが、アスベストに関しては、津波被災地では、内陸部の被災地域の建築物でも広く被害が生じている可能性がある。外観では見られないもの、外観では見えない被害を受けていない印象であった。しかし、建物の中を確かめると、壁や天井に大きなひびが入っていたり、天井が脱落して天井の耐火被覆が吹き出しに

なっていたりと、外観からの印象よりも建物の実態のダメージは大きいという状況だ。

解体・補修に注意と配慮を

ており、波板スレートや混入しているケースもあり、注意が必要である。そのほか、船舶や煙突の断熱材(カポスタック)にアモサイトが使用されているケースもあり、地震被害を受けた煙突については解体や改修工事を実施する際には、事前アモサイト含有の有無や劣化状況をきちんと調査した上で、どのような対策を講じていくかを考える必要がある。

「最後に一言。今回4月中旬に現地入りしたが、現地は被災された皆さんがまだ避難生活をされている状況であり、地元の自治体などでは今日の住民の方々の生活をどうするかということが最優先の課題だ。今後、被災地の復興を進めていく上で、津波被害のがれき処理や倒壊した建築物の処理が実施されていくことになる。



通常ではアスベストが飛散しないような成形板でも重機で仕分けする際に飛散してしまう恐れがある



津波被害を受けた海側の建築物については屋根などにスレート波板を使用しているものも多かった



除去や封じ込めなど従来のアスベスト対策を調査した上で今後の対応を考えていくことが重要

「このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。

「このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。

「このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。

「このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。

「このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。このように、被災した建築物の中には、現在使用中の建築物などに対してアスベスト対策の視点で現状を調査し、的確にその状況を把握することが必要である。